



# 保育關係文献解説(三)

愛育研究所  
教養部 竹田俊雄

## 六 兒童の見方と扱い方

東京文理科大学内兒童研究会編

「兒童研究法」(兒童心理叢書一)

金子書房

昭和二十四年 A5二六〇頁 二五〇圓

兒童を科學的に見るためには、どのような研究方法をとつたならばよいかを概観する教養向ないし専門向の書。保育に従事する人々が兒童を見るにあたつて、この水準の教養をみなもつようになることが望ましい。この書の内容は次の五編から成つてゐる。

兒童心理學史綱

兒童研究の方法と問題

兒童觀察法

性格・個性・情緒の検査法

兒童の診断

後藤岩男

「兒童理解の方法」

昭和二十三年 A5三三二頁

二五〇圓

この書は二つの部分から成り、第一編兒童の心理では兒童の精神發達の概要と特殊兒童の心理とを述べ、第二編兒童理解の方法では、環境とか理解とかいうことを明らかにするとともに、生活實態調査や、觀察法、テスト法その他種々の兒童理解の方法について説き、教育相談にもよつと觸れてゐる。著者は當時東京高師教授で、主に小中學校の教師を對象としてゐるが、ゲンユタルト心理學からの兒童の見方を知るためには、保育者にも參考になる。教養向。

なおこの種の文献としては次のようなものがある。

教育心理研究会編「兒童研究法」

後藤岩男「兒童觀察の理論と方法」

山下俊郎

「教育的環境學」

昭和十二年 B6三六二頁

兒童の指導にあたつては、その環境の研究が重要であることはいうまでもないが、この書は教育的環境學の立場から、

東洋書館

目黒書店

岩波書店

一五〇圓

世界社

武政太郎

中野佐三

後藤岩男

戸川行男

平井壽也

環境の概念を規定し、遺傳と環境とを説き、環境類型論を立て、環境の研究法を種々述べて、環境關係の基本的様式、環境技術學等を論じてい、その後半に及んで、社會的經濟的地位や家庭環境と言語發達や知的發達との關係、一人子や同胞數についての問題を具體的に取扱つてゐる。兒童の環境の問題を考える場合、必ず讀むべき専門向文獻。

牛島義友

「教育のための標準検査」(兒童研究叢書三)金子書房

昭和二十四年 A5四二三頁

四五〇圓

兒童の知能や性格などを單に主觀的に見ずに、客觀的に検査することが、新しい教育で要求されている。この書はまず標準検査はどのような性質をもつものであるかを説き、日本で現在用いられるあらゆる知能検査(個別のおよび集團的)適性検査・學力検査・性格検査を網羅的に掲げて、その特質を述べ、いかなる場合、いかなる検査を用いることができ、それはどのように解されなければならないかを明らかにしている。心理的な検査をおおうとする人の承知していなければならぬ文獻である。教養向ないし専門向。

教育心理研究會編

「現行知能検査法」

昭和二十四年 B6三二〇頁

二五〇圓

金子書房

これは知能検査がどのようなものであるかを解説したもので、その歴史、意義、種類、構成、その現狀と展望をまず述べ、検査の作り方を説いて、よい知能検査法とはどんなもの

をいうかを明らかにし、検査結果の現わし方とともに、その應用の場面を擧げ、實際に検査を行うにあつての注意を與え、現在行われてゐる主な知能検査法について紹介し、最後に知能検査と關係の深い統計法の概要を述べてゐる。知能検査を正しく理解するために便利な書である。教養向ないし専門向。

鈴木治太郎

「實際的知能測定法」(昭和二十三年修正増補)

昭和二十三年 A5三八七頁

三〇〇圓

東洋圖書

いわゆる鈴木ビネー式知能検査として、現在わが國で行われている知能検査中、もつとも完全な尺度といわれているもの。その検査について、理論的な特質、實際の測定方法、結果の應用等を詳細に説明している。この検査は大體三歳から成人までの知能を測定し得るから、幼児や學童の知能検査を行う場合にはこれを熟讀するがよい。専門向。

田中寛一

「田中びねー式知能検査法」

昭和二十二年 A5三四八頁

二五〇圓

世界社

前者とならんでわが國における個別的知能検査中、信頼されているもの。この検査法の特徴、實施上の注意、検査問題と検査方法、結果の統計的考察や利用の仕方が述べられてゐる。満二歳より成人までの知能を測定し得ることになつてゐる。専門向。

中島義友・木田市治  
森脇 要・入澤壽夫

「乳幼児精神發達検査」(兒童研究叢書二) 金子書房

昭和二十四年 A5三四七頁 四八〇圓

愛育研究所編の乳幼児精神發達検査を詳しく説いたもの。

この検査は出生直後の乳兒から満六歳未満の幼兒にまで適用でき、低年齢の兒童の知能ばかりでなく、精神發達一般を測定し得るところに特色がある。この書にはこの検査法を簡單にした乳幼児簡易検査の問題、その他もつけ加えられているが、簡易検査は一般の保育者も容易に利用できよう。専門向であ。

知能検査の文献として以上のような個別的検査に關するもの外に、集團的検査に關するものも多く出版されているが集團的検査は幼兒の知能測定に適當ではなく、また兒童福祉施設に在る學童以上の問題の場合にも多くは確實な結果が見られないので、省略することとする。

牛島義友  
波多野完治 編

「兒童の心理と能力検査」(教育心理學研究一) 巖松 堂

昭和二十四年 A5二四六頁 二五〇圓

六篇の教育心理學に關する研究と講座から成り立つてゐるが、幼兒に關係の深いものは次の論文である。

牛島義友 社會的生活能力検査

これは知能や知識とは一應別である生活能力を検査するも

ので、ここには一歳から 歳までの兒童の検査法が、その理論的な考察とともに示されている。たとえば「自分で着物をきる」ことが四歳兒の問題として擧げられている。幼兒や精神薄弱兒等の生活能力を知るのに用いられる。専門向。

牛島義友  
波多野完治 編

「性格と社會性の検査」(教育心理學研究二) 巖松 堂

昭和二十四年 A5二三八頁 二五〇圓

教育心理學に關する八篇の研究と講座とを含んでいる。その中、幼兒に關するものは次の研究である。

兒童母性研究會 幼兒の標準検査

——幼兒性格教育検査と幼兒體力検査——

性格教育検査は、いかなる性格のものが日本の幼兒として好ましいか、理想を立て、それについて個々の幼兒の性格を評價するのであり、體力検査は、幼兒の疾走・立巾跳・投擲等の標準を定めて、その體力を測定しようとするものである。幼兒の性格や體力を客觀的に検査しようとする保育者に役立つ。専門向。

なおこの書はまた次のような論文をも含んでいる。

田中寛一 向性検査とその基準

戸川行男 性格検査としての精神作業検査

前者は内向性・外向性の問題を扱つており、後者はいわゆる内田・クレペリン検査について説明している。

牛島義友

「不良化傾向の早期発見」(兒童研究叢書一) 金子書房

昭和二十三年 A5一五六頁 一三〇圓

これは環境性格評定尺度・同簡易評定尺度・非行検査・不良兒童識別のための性格検査の検討の四篇より成り、最後のものには徳性検査・情緒性検査・劣等感検査・信頼性検査等が含まれている。兒童にこれらの検査を行つて、その性格を評定・検査し、不良化の傾向を見出そうとするもので、問題を扱う保育者の讀むべきもの。専門向。

戸川行男

「性格の類型」

昭和二十四年 B6三四三頁 二八〇圓 金子書房

この書は性格をクレツテムルによつて考え、分離性性格・躁鬱性性格を現象的に述べるとともに、第三にヒステリー性性格を擧げ、さらに意識人と空想人、素質と環境、個と類型について、具體的な例を豊富に示しながら、きわめて興味ある敘述をしている。幼兒の性格を直接にはあまり談つていないけれども、性格というものを考えるには好個のものである。なほ末尾には分離性性格・躁鬱性性格・ヒステリー性性格の成人および兒童の客觀的ならびに主觀的な特徴の表が附加されている。専門向。著者は早稲田大學教授。

高崎能樹

「子供の個性と癖」(子供の教養叢書二) 草美社

昭和二十四年 B9一七二頁 一〇〇圓

阿佐ヶ谷幼稚園長である著者が、實際的の立場から個性に

ついて述べ、氣質別に、遊びや生活によつてこれを指導する方法を説き、さらにこどものおちいりやすいいろいろな癖についてその直し方をきわめて平易な調子で扱っている。一般向・教養向。

東京文理科大学内兒童研究會編

「生活指導と性格教育」(兒童心理叢書八) 金子書房

昭和二十四年 A5二五七頁 二四〇圓

これは次の五編より成つている。

性格教育 正木 正

環境の心理 桂 廣介

幼兒期の生活指導 山下俊郎

兒童精神衛生 桶口幸吉

パーソナリテイの發達 依田 新

「幼兒期の生活指導」は、直接幼兒の生活指導とはどのようなものであるかを取り上げ、食事・睡眠・排泄・着衣・清潔等のいわゆる基本的習慣がどのように形成されるかを具體的に示している。その他の研究もれぞれ兒童の生活をどのように導きどのように性格をつくり上げて行くべきかについて、保育者に教えるところが少くないであろう。教養向。

東京文理科大学内兒童研究會編

「學習指導」(兒童心理叢書九) 金子書房

昭和二十三年 A5三〇三頁 二四〇圓

保育ということは、一面において學習指導であり、この點から保育者は新しい教育において一般に學習ということがど

のように考えられているかを知らなければならぬ。この書にかかげられているのは次の七つの論文である。

學習指導の原理 石山修平  
動機づけ (モチベーション) 小見山榮一

學習過程 武政太郎  
問題解決と學習 中野佐三

學習と記憶 玉岡忍

新教育と教師 石三次郎  
教育と教育評價 長島貞夫

専門向。

## 七 観察と繪畫・製作

栗山重

「幼児の科學教育 (保育叢書一八)」

昭和二十一年 B6 一五六頁

巖松堂 一二〇圓

正しい幼児の科學教育はいかにあるべきかということ、観察を中心として具體的に説いたもの。正しい観察・觀察の材料とその排列・設備と備品・觀察の指導法・幼児に對する質問の答へ方・觀察保育と大切な娘・保姆の修養法・子供發達の調査・母親の教養について 季節保育についての十章から成つてゐる。幼児が科學的に伸びるためには、早くから實事實物に當つて直接經驗させることが重要なことを主張してゐる。著者は啓明學園教諭。教養向。

副島ハヤ

「幼児の繪畫と製作」 (保育叢書一八)

昭和二十四年 B6 二三九頁

巖松堂 二二〇圓

新しい保育の中で、製作というものがどんな姿であらねばならないかを説き、製作の教育的な價値を明らかにしてゐる。これがこの書の骨じの五分の一で、以下いろいろな製作の種類と方法とが、著者多年の豊富な體驗から次ぎ次ぎとかがけられ、繪畫 (これも自由畫から塗り繪まで、またクレヨン畫からブラツシ繪まで) 折り紙、切り紙、貼り紙、切り貼り紙、組立て紙細工、型細工、版細工、縫物細工、紐編細工、麥藁細工、粘土細工、木工細工、きびがら細工、自然物細工と、繪畫と製作のいろいろな分野にわたつて、その教育的價値・材料・方法・指導上の注意が、一三四圓の挿繪をそえて、きわめて具體的に説き明かされている。非常に親切にできた教養向の書である。著者は現に厚生省保育課勤務。

副島ハヤ

「子供と母親の製作玩具」

昭和二十三年 B6 一四九頁

片井商會出版部 二二〇圓

幼児自身で作れる玩具、母親や保育者が手製で作れる玩具を平明に解説したもの。製作物の圖版も豊富に入つてゐる。内容は、はじめに子供の遊びと玩具についての説明があり、次に手製玩具の作り方として、子供の繪を主とした玩具製作折り紙から出来るお面やかぶりもの、自然物・空箱・小布・空罐等を利用した製作玩具、竹や木片で作れる玩具、指つかい人物やあやつり人形、手製の樂隊道具など、いろいろなも

の作り方がていねいに述べられている。教養向、一般向。  
瀧田要吉

「自然物のおもちや」

昭和二十四年 B6二二三頁

フレール館  
二〇〇圓

こども達が自然物をおもちやにするところから、この書は傳承的なものや、著者の工夫になる自然物の工作を、美しい挿繪や童心豊かな詩とともに描き出している。装幀からして非常に心をひきつけるような、この書自體が楽しい工作であることが特長であろう。内容ははじめに、教材としての自然物、形態の觀察について、かたちの省略について、かたちの誇張についてという一般的な説明があり、本文は春夏秋冬の四季にわけて、たとえば春ならば、花の細工として、うめのはなにんぎよう、れんげの花わ、春の草と葉つばとして、つくしのとんぼ、葉つばのてさげというように、繪を主にしてその工作を説明している。教養向。

發行所 所在地

- 金子書房 東京都文京區大塚坂下町一五五
- 世界社 東京都文京區音羽町三ノ一九
- 東洋書館 東京都千代田區飯田町一ノ六
- 目黒書店 東京都千代田區神田駿河臺三ノ一
- 岩波書店 東京都千代田區神田一ツ橋二ノ三
- 東洋圖書 大阪市南區北桃谷町四七
- 巖松堂 東京都千代田區神田神保町二ノ二
- 草美社 東京都千代田區神田神保町一ノ三三

片井商會出版部  
フレール館  
静岡市末廣町九六  
東京都千代田區神田神保町二ノ四

